

世界の労働者はアスベストを拒絶する

世界の労働者を代表する団体はアスベストを禁止するキャンペーンを支援し、アジア太平洋地域の多くの関連労働組合が世界的アスベスト禁止を活動の中心に据えている。日本の労働組合総連合会（JTUC）、韓国の労働組合、及びオーストラリア労働組合総評議会（ACTU）は、アスベスト禁止と安全衛生に関し国の政策決定者に協力してよい結果を達成した。この地域の他の諸国の労働団体は、現在までのところ、同じような成功には到っていないが、それでもアスベスト禁止政策は、マニラにおける第八一回国際自由労連（ICFTU）*アジア太平洋理事会及び二〇〇五年二月にネパールで開催された第一八回地域会合で採択された二〇〇五年一〇月のアスベスト禁止決議に従い、アジアの労働運動における重点項目としている。

二〇〇五年から二〇〇六年を通じて、アスベストに関わる活動は、労働組合のアスベスト禁止キャンペーン資料の出版、キー・パーソンに対する訓練と能力開発、バン格拉デイシユ、パキスタン、イン

「アスベストはいつでも最大の産業殺人者であり、毎週数千人が殺され、少なくとも五分に一人が死んでいる。しかし、それは世界的には禁止されていない…」

国際金属労連（IMF）

* 国際自由労連（ICFTU）は、2006年11月に、国際労連（WCL）等と共に国際労働組合総連合（ITUC）を結成。国際産業別組織（GUF）でも、国際建設林産労連（ICFTU）から、国際建設・林業労組連盟（BWI）への発展改称等の動きがある。

ドネシア、及びフィリピンとの共同プロジェクトなどの活動が続けられた。国際労働者記念日（IWMD、二〇〇六年四月二八日）、世界中の労働組合は、その日を記念するデモ行進、集会、情報セッションのなかで、アスベスト使用による人的被害に光をあて、アスベストの世界的な禁止を要求した。二〇〇七年のIWMDにおける労働者行動のテーマは職業がんであったので、アスベスト災害は当日の世界行動において再度、高い優先度が与えられた。「職業がん／ゼロがん…予防のための労働組合ガイド」と題する文書が、英語、フランス語、スペイン語、及びロシア語で国際金属労連（IMF）により一〇の国際産業別組織（GUF）及び国際労働組合総連合（ITUC）の協力を得て同日に刊行された。*
 「少なくとも一〇のがんのうちのひとつ―そして恐らくも多く―は防ぐことのできた、予測することができた職場での曝露の結果である。アスベストはいつでも最大の産業殺人者であり、毎週数千人が殺され、少なくとも五分に一人が死んでいる。しかし、それは世界的には禁止されていない…」

労働組合は職場がんリスクに取り組んでいる。アスベスト産業による潤沢な資金を持った後方からの宣伝活動にもかかわらず、アスベスト禁止は広がっている。労働組合は職業がんの原因の認定、その使用の制限、及びその被害者の補償を勝ち取ってきた。しかし、予防こそが唯一の治療である。職場、国家及び国際的なレベルでのアドバイス、訓練、及び組合活動を通じて、このキャンペーンは不健康な職場はコスト便益の帳尻で忘れ去られるべきことではないということを確実にすることを意図している。仕事は生きるためのものであり、死の原因であってはならない。

* 国際労働者記念日 (IWMD: International Workers' Memorial Day) <http://www.hazards.org/wmd/index.htm> 参照

** [原注91] www.imfmetal.org/cancer